

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

開会挨拶



輪島市長 梶 文秋

日本海にぎわい・交流海道ネットワークの講演会の開催に当たりまして、開催地を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は何かとご多用の中にもかかわりませず、国土交通省からは大臣官房技術参事官山縣宣彦様を初め、関係する多くの皆様方、またこの交流海道ネットワークの会員でございまして、北は北海道稚内から南は九州佐賀県の唐津市の皆様、本当にこの輪島市までお越しをいただきましたこと、厚く御礼を申し上げたいと思います。

また、地元市民の皆様を初めといたしまして、平日ということにもかかわりませず、本当に多くの皆様にご参加をいただきました。重ねて御礼を申し上げたいと存じます。

輪島市では、いよいよ来春予定されておりますマリンタウンの客船岸壁の供用とその実現が大変期待をされております。豪華客船の輪島港への寄港に向けて、その供用開始がまさしく地域におきましては能登半島地震からの復興のシンボルとも言える、そんな思いで私たちはこの間、誘致活動あるいは受け入れ体制の準備を進めてまいったところであります。

こうした中で、この日本海にぎわい・交流海道ネットワークの講演会を輪島市で開催していただくということになりました。しかも、本日のこの講演会の内容が、まさしく今私たちが目指している豪華客船の寄港による地域の活性化をテーマにしたものということでありまして、豪華客船の寄港を目指している私どもといたしましては、ネットワークの事務局の皆様方にも本当にありがたく、感謝の念にたえません。高いところからでありますけれども、厚く御礼を申し上げたいと存じます。

基調講演におきましては、私たちが以前より輪島港への誘致活動を行っておりますところの豪華客船「にっぽん丸」を所有しておられます商船三井客船株式会社より営業部の次長ということで、実質的にその責任を一手に受けておられます小出文隆様にもお越しをいただき、ここにありますタイトルのように「豪華客船によるクルーズの魅力」と題しましてお話をいただく予定であります。

また、その後、コーディネーターとしてフリーアナウンサーの小西敦子様、またパネリストといたしまして基調講演でご講演をいただきます小出様や、静岡県でこの間、清水港の客船誘致委員会の会長として長らく客船誘致にかかわってこられました、望月薫様、また国土交通省北陸地方整備局の方からは次長の鈴木勝様、そして、最もパネルディスカッションを苦手とする私も一緒に入りまして、パネルディスカッションを行いたいということになっておりまして、その中のテーマは「客船から寄港地への贈り物」こういったタイトルでパネルディスカッションが行われるわけでもあります。このいずれの内容にいたしましても、来年以降、私たち豪華客船を迎えることになる輪島市にとりましては非常に大きな、参考事例も含めてお聞きすることができるだろうというふうに考えております。

ご来場の皆様方におかれましても、豪華客船の寄港とは、これまで全く未知のことであり、一体どのようなことに展開をしていくのか、新たなにぎわい創出のヒントとしてぜひとも最後までこの皆様のお話をお聞きいただき、是非とも、もともと海で開けたわが能登半島全体の大きな課題発展のために、ともにそのことを目指して、今日のこの講演会が第一歩になりますことを祈念を申し上げながら、感謝と、そして未来をつくり出す、そんな思いでごあいさつをさせていただきました。

本当にありがとうございます。